

MMCニュース 経営情報

2023年12月号

〒101-0051

東京都千代田区神田神保町 2-20

ワカヤギビル 504

TEL.03-3511-6038 FAX.03-3511-6039

<https://www.mmc-office.co.jp>

有限会社MMC

失敗を前提にした企業は そうでない企業より 発展する！？

世界的に宇宙開発の覇権争いが激化しているそうです。宇宙には手つかずの天然資源が豊富にあると考えられ、宇宙資源は早く見つけた国に優先権があるからだと思います。また、宇宙開発を行ううえで欠かせないのはロケットです。ロケット開発といえば、アメリカではNASA・日本ではJAXAといった国の機関ですが、ここ数年は民間機関の方が開発の将来性に優れているとのこと。その大きな理由には以下の事があるのでそうです。

- ① 国の機関は税金を投入しているため研究者の間では「失敗は許されない」との意識が高い
- ② そのため、常に完璧な状態を目指すことになるので、開発スピードが落ちてしまう
- ③ 一方民間機関は「失敗は当たり前。失敗を繰り返したのちに優れたロケットを開発すれば良い」

上記③を実現できる民間機関には資金力が欠かせません。資金力のある民間機関(スポンサー)として有名なのは、イーロン・マスク氏や堀江貴文氏の資金が関係している宇宙開発です。

宇宙開発はとても大きな話しになってしまいますが、我々中小企業においても同様の事はあるのではないで

しょうか！？

- 何事にも議論やシミュレーションを重ねて、失敗しない状態にしてからスタートする戦略

↓

失敗の可能性は低いけれどもスピードは遅くなる

- 「まずやってみる&取り返しのつかない失敗は多くない精神」でとにかくやってみる戦略

↓

風通しの良い社風となり社員は意見を言いやすくなる

詭弁と思われる方がいらっしゃるかも知れませんが、NASA や JAXA が今となっては開発に遅れをとっている事を考えると、我々も完璧を求め過ぎない方が良いのかも知れません。

住宅金融支援機構 「フラット35」 子供の数により金利優遇

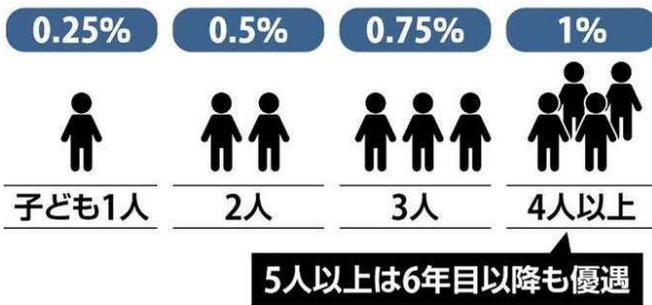
住宅金融支援機構は、住宅ローン「フラット35」の金利を子どもの人数に応じて引き下げる優遇措置を導入すると発表しました。狙いは子育て世帯の住宅取得支援で、臨時国会で2023年度補正予算が成立すれば、来年2月をめどに適用を始めることとなります。背景には、資材費や人件費の高騰、長期金利の上昇で住宅取得の負担が増していることがあります。

ローンを申し込んだ年度の4月1日時点で18歳未満の子どもがいる世帯が対象となります。例えば、子ども1人の世帯では借入れから5年間、金利を0.25%引き下げることとなります。住宅を購入時に35年ローンで300万円を借入れた場合、現在の金利水準で換算すると、毎月の返済額が9万9000円から4000円減ることとなります。

子ども2人の場合は0.5%、3人なら0.75%と、子どもが増えるごとに引き下げ率が拡大します。最大は1%で、5人以上の場合は、6~10年目も引き下げるといいます。子どもがいない場合も、夫婦のどちらかが40歳未満であれば金利が0.25%下がる。なお、現在返済中のローンには適用されません。

◆フラット35の金利引き下げ

※当初5年間。他の制度を利用しない場合



売上の回復率は98% コロナ禍前まであと一歩

経営において“売上の3種比較”をよく行います。前期比・同業他社比・予算比です。ただし個別事情がある場合、その比率が伸びていても参考になりづらいことがあります。コロナ禍がまさにそのケースになるかと思えます。

そこで、この度弊社顧問先の理美容業の方の売上データの平均値を2019年(コロナ前)と2023年で比較してみました。2023年について集計可能なデータは本書作成時においては10月まででしたので、各年1月から10月までの平均データを集計したところ回復率は98%となっております。この回復率も各顧問先様で事情は様々ですのでどう読み解くか難しいところですが、かなり回復してきていると言えるのではないのでしょうか。

皆様の回復率を算定する際のひとつの参考にしていただければと思います。

「諦め悪い」を 「成し遂げる」 に結びつける

女優の原日出子さん、コロナ禍に夫で俳優の渡辺裕之さんを亡くしましたが、「婦人公論8月号」にインタビュー記事が掲載されましたので一部をご紹介します。

◆子どもと助け合いながら

今年、長女は40歳、次女は29歳、長男は27歳。次女

は実家を離れていましたが、夫(俳優の渡辺裕之さん)の病気のことで、一昨年末に帰ってきてくれました。夫はもともと心配性だったので、気持ちが不安定なのが病気のせいだとわかるまでに、時間がかかってしまって。私が焦って苛立っても、子どもたちは根気よく、温かく、夫と向き合っていました。私にも「たまには友達と食事に行けば」と気遣ってくれて。私も「今日は私が頑張るから充電してきて」と返したり、あの頃は助け合いながら過ごしたりしていました。

◆役に追いつけるよう努力の連続

夫を見送った後、一番の救いとなったのはお仕事です。居場所があることが、どれほどありがたかったか。しばらく現場から離れていたのが、久々にドラマに出演した時は緊張してしまいましたが、40年以上俳優を続けられたのは、諦めが悪い性格だから(笑)。自分には荷が重いと思う役と出合った時に、「できません」と言えば先が絶たれる世界。まず「やります!」と答え、役に追いつけるよう努力する。その連続なんです。

◆子どもたちには、「どんな扉の前にも立ちなさい、立ったら開けなさい、開けたら入りなさい」と常々伝えていきます。入ってみて、自分に合わないなら出ればいい、と。私も昨年、マスク生活で呼吸が浅くなっていることに気づき、ボイストレーニングという扉を開けました。お腹からしっかり声を出すと、気持ちも前向きに。心に余裕ができて、「今年はキャンプに行きたいな」など、楽しいことも考えられるようになりました。何事も一歩踏み出してみると、想像もしていなかった世界が広がります。子どもに「扉を開けろ」と伝えてきた以上、母である私がそういう生き方をしないと、示しが見つからないですものね。(笑)



MMCホームページ



YouTube



10年口やせました

<https://www.mmc-office.co.jp> 検索「MMC神保町」

今年も一年ありがとうございました。

来年もよろしく願いいたします。